

相手を想う…『ゲートキーパー養成講座』

うだるような暑さの中、体育館にて、3年生を対象とした『ゲートキーパー養成講座』が開催されました。瑞浪市役所健康福祉部のサポートにより、今年度も実施することができました。

講師の先生は昨年度同様、聖十字病院で精神福祉士として勤務されている、藤木 誠先生です。昨年度の生徒の様子から、新たに内容を構築されてお話ししてくださいました。

『ゲートキーパー』とは、自殺の危険を示すサインに気付き、適切な対応(悩んでいる人に気付き、声を掛け、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る)を図ることができる人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のことです。

とあります。

日常生活の中で関わる家族、仲間、近所の人たちの様子から、少しの変化に気づき、声を掛けること、話を聴くこと…など、寄り添うことが大切であることを改めて学びました。学校生活の中でも、十分に生かすことができます。

【感想】

☆この講座で話を聴いて、「ゲートキーパー」は、とても大切な人なんだと知ることができました。将来、私の大切な人が辛い思いをしてしまった時、この講座で学んだことを生かして、優しく声をかけて、その人に寄り添い、力となれるようにしたいと思います。

☆私は将来、心理に係る仕事に就きたいと考えています。それは、自分にも精神的不安があって、気を病んだことがあったからです。その時のゲートキーパーは母でした。まさに、寄り添って見守ってくれる温かい存在でした。藤井先生のような人に寄り添うことができる仕事はとても素敵だと思いました。

